

栗東市地域福祉計画委員会（第1回） 議事概要

日 時	平成 28 年 11 月 29 日（火） 午後 1 時 30 分 ～ 午後 2 時 45 分
場 所	栗東市役所 2階 第1会議室
出席者	<p>【委 員】</p> <p>岡野英一（学識経験者）、村田智美（学識経験者）、黒田元吾（社会福祉協議会会長）、青地 勲（社会福祉協議会副会長）、宮城安雄（なかよし福祉会理事長）、横山真弓（グランマの家保育園園長）、樋上雅一（草津栗東医師会会長）、中村末雄（民生委員児童委員協議会連合会副会長）、池田久代（ボランティア関係者）、吉仲幸子（老人クラブ連合会会長）、杉田聡司（自治連合会会長）、清水 憲（自治連合会会長代理）、清水久輝（草津・栗東地区労働者福祉協議会事務局長）、金城ゆみ子（同和対策促進連絡協議会十里支部書記長）、稲垣明美（校長会会長）、北村一子（公募委員）、田中啓久（公募委員）</p> <p>【栗東市】</p> <p>野村昌弘（栗東市長）、谷郷喜英（健康福祉部長）、山本正実（社会福祉課長）、的場紀雄（社会福祉課）</p> <p>【関係者】</p> <p>山中忍恵、中沢有紀、本間由樹（栗東市社会福祉協議会）</p> <p>小林 智、平川理恵（株）ジャパンインターナショナル総合研究所</p>
欠席委員	千代妙子（特別養護老人ホーム淡海荘荘長）、上田紀子（女性団体連絡協議会副会長）、高畑きぬ江（心身障害児（者）連合会会長）
傍聴者数	0名
協議事項	<p>（1）委員会の設置、及び委員の委嘱について</p> <p>（2）委員長、副委員長の選出について</p> <p>（3）「第3期栗東市地域福祉計画」策定に係る今後のスケジュールについて</p> <p>（4）市民アンケート調査の実施について</p> <p>（5）その他</p>

1. 開 会

2. 市民憲章唱和

3. あいさつ

・市長あいさつ

4. 内 容

（1）委員会の設置、及び委員の委嘱について

（事務局）

本日は、千代委員様、上田委員様、高畑委員様から欠席のご連絡をいただいている。

2、3ページに委員の設置要綱があるが、昨年度までは計画の策定と進捗の確認の2つ委員会があり、委員構成は違っていた。今年7月に要綱を改定させていただいて、今後は、策定と進行管理は一本化で引き続いてお願いするように改正させていただいた。

3ページの1行目に、会議の成立要件として、委員の半数以上の出席とある。本日は20名中17名ご出席いただいているので、委員会は成立した。

委嘱状交付は、時間の関係上、机の上に委嘱状を置かせていただいた。

続いて自己紹介をお願いします。

<自己紹介>

<公務のため市長退席>

(2) 委員長、副委員長の選出について

(事務局)

選出方法は、どうでしょうか

(委員)

今の計画との継続性があるので、第2期と同じく、村田委員長、黒田副委員長に継続してもらってはどうか。

(事務局)

それでよろしいでしょうか。

<異議なし>

(事務局)

それでは、委員長に龍谷大学特任講師の村田先生、副委員長に社会福祉協議会の黒田会長さんをお願いしたいと思います。

<席移動>

(委員長)

5年ぶりにお会いさせていただく方と、新たな方もおられる。第3期の地域福祉計画を策定にするにあたり最初の顔合わせであり、忌憚ないご意見をいただける会にしたい。5年前と比べると、地域福祉は刻々と変わっている。大きな震災が起こり、地域のみなさんの力が求められる場所が増えてきた。高齢者、子どもの分野でも地域の力が大切という認識が全国に広がってきている。みなさんの現場の意見をいただきたい。

(副委員長)

不慣れですが、一生懸命つとめていきたい。

(事務局)

<委員会の公開についての説明>

今日が最初の会議ということで委員長が決まっていなかった段階だったので、別資料4ページに記載の内容で、今日の会議については既に市役所の情報公開コーナーやホームページに掲載させていただいた。お問合せは1件あったが来られていないので今日は傍聴者はありません。さきほど委員長も決まったので、あらためて今後のこの会議における傍聴方法についてご検討いただきたい。

<傍聴の手続きを説明>

会場が狭い場合は、6名以内のなかで事務局のほうで決めさせていただきたい。

今後、この資料の内容で進めさせていただきたい。

(委員長)

計画の趣旨としては、広く住民の方に参加していただきたい。賛成の方は挙手をお願いします。

<挙手多数・了承>

(委員長)

では、(3)の「第3期栗東市地域福祉計画」策定に係るスケジュール、(4)の市民アンケート調査の実施について、あわせて説明をお願いします。

(事務局)

(3)、(4)をあわせて説明させていただきます。

地域福祉計画がなぜ必要なのか、まずご説明させていただきます。第2期計画P1、2をご覧ください。平成12年の社会福祉法の改正にともない、何が変わったかという点、第4条に「地域住民」という言葉が付け加えられ、住民もサービスを受ける側というだけでなく、住民自らも地域福祉の推進に努めなければならないとなった。地域の中での支えあいを担っていかなければならないと変わった。社会福祉法第107条に、自治体は地域福祉にかかる基本的な考え方をまとめた計画を策定することに努めるとなっている。1ページの計画策定の背景の最後の3行で地域福祉を進める理念的なところが示されている。今日はこのあと、社協の地域福祉活動計画の委員会が予定されているが、行政は理念や仕組みづくりで、これに基づいて、どのような取り組みを誰がしていくかというのが社協の作られる活動計画となる。このあと、社協の活動計画の委員会の中で、詳しい説明があると思います。

今後のスケジュールだが、今の計画は平成29年度までで、これに続く計画を来年度の平成29年度に議論を深めていただきながら、第2期の成果と課題、検証をしながら計画策定をしていこうと思っている。その前に、市民アンケートを今年度実施する。前回調査の時点と市民の意識はどのように変わったかを調査する。

引き続き、(4)の市民アンケート調査の内容についてご意見をいただきたい。

基本的には前回との比較が必要なので、第2期の時のアンケートをベースにしている。

しかし、時代の変化や新たな福祉の制度によって、新たに付け加えたところもあり、その点を説明したい。まず、8ページで、近年、震災、集中豪雨、災害が発生している。問17で、ウ、エを追加させていただいた。また、問18、19も、災害時避難行動要支援者登録制度についての設問を盛り込みをさせていただいた。

続いて、9ページ、「あらたに地域での支えあいが求められる制度について」を盛り込んだ。生活困窮者自立支援法が施行されたこと、そして介護保険法の改正で地域での支えあいをしていこうということもあるので、啓発も兼ねて盛り込んだ。

10ページも福祉についての考え方について追加している。問23、行政中心か、住民と協力しあうか、住民が主体的にあるのかという設問である。

前回、成年後見制度の設問があったが、これは今さしあたって地域福祉の中では割愛してもよいのではということでこの項目は1つ減らしている。

調査については、18歳以上の市民2000人を無作為に抽出し、アンケートを実施していきたい。

本日は調査項目について、ご意見をいただきたい。

今後、調査票を12月中に修正し、1月から調査を実施したい。結果については、2月頃予定の次回委員会で報告させていただきたい。

(委員長)

何かご意見、ご質問はございますか。スケジュールはよろしいですか。

<スケジュールについて 異議なし>

(委員)

先日、別のアンケートが届いたが、私には何の関係もない内容だった。買い物はどこでしますか、一日何回買い物をしますかというアンケートだったが、私自身は買い物をしないので関係がない。このアンケートも、18歳の人に聞いても福祉の問題には関係がないと思うのではないか。空振りしては意味がない。福祉に関心のある人に対象を絞って調査し、分析したほうが意味があるのでは。何のためのアンケートかを考えて対象を選んだほうがよい。

(委員長)

前日も18歳以上、2000人だったのですね。

(委員)

前日も2000だったか？年齢別の回収率はどうか？ある年齢層の中で抽出してはどうか。

(事務局)

前日も2000人調査で、回収率58%。年齢別の分母がわからないが、回収率は18、19歳は1.5%、20歳代が9.3%、30歳代が21.1%、40歳代が17.8%、50歳代が13.4%、60歳代が19.5%、70歳以上が16.7%となっている。

(委員長)

現在18歳というのは、今後5年間で栗東の地域に出ていく世代。認識の高い低いも含めて、こうした年代の意識を把握しておくことも大切。全体の回収率は他市と比べても低くはない。回答率を上げるためには工夫が必要。自分には関係がないと思う内容だとして二の足を踏むことがあってはいけないと思う。しかし、前回と比較する上では変えることも難しいので、整合性を検討してもらえたら。

(事務局)

地域福祉の計画は、高齢者、障がい者の計画のアンケートとは性格が異なる。高齢者、障がい者のアンケートは、対象となる「人」へのサービスについてニーズを把握するもの。しかし地域福祉は、「地域」で何をするか、できるかである。若年齢層に関心がないということであれば、その層にどのような取り組みが必要かというデータにもなる。

(委員長)

ボランティアについて意見はありませんか。

(委員)

ボランティアの課題は、担い手が少なくなっていることと、高齢化していること。40代以下の若い人が入っていない。人を広げていくことが課題で、なかなか入ってきてくれない。

人はそれぞれに声をかけてもらえれば入ってくれる。簡単に入っていけるものと考えていければ。

(委員長)

ボランティアについての項目では、ボランティアへの関心度や活動について問うている。行政としてどのような支援ができるかが課題になってくる。

(委員)

前回のアンケートとあまり変えないほうが良いと思う。アンケートなので、無作為にやってもらって、年齢層や考え方がわかればいいのではと思う。

(委員)

前回、回答がなかった層は意識がないということか。
アンケートが返ってこない理由についても考察してもらえたら。

(事務局)

前は、返ってこなかった理由についての考察まではしていない。

(委員)

無作為抽出とは、人口構成はどうしているのか。

(事務局)

市全体の人口の構成比にあわせている。

(委員)

先日、行政ではないがアンケートがあり、それは直接回収に来られた。返ってこないのは、答えたくないではなく「忘れていた」「面倒だ」というのが理由では。郵送以外の方法を考えては。

(委員長)

前回のアンケートでは、民生委員さんが回収したこともあったのでは。

(委員)

回収率を上げる方法が議論の中心なのか。アンケートを返さないというのも一つの意思表示である。
個別訪問の回収は民生委員さんの負担が大きくなる。

(委員長)

第1期計画では民生委員さんに配布してもらったが、第2期計画は返ってこないことも含めて意思表示としてポストイングにした。無作為については、栗東市の世代構成にあうようにしていただく経緯だった。

(委員)

国勢調査はスマートフォンで回答した。そういう方法もあるのでは。

(事務局)

コンサルタント業者に伺いたいですが、栗東市の人口規模6万人に対する2000人の無作為抽出について、信頼度はどうか。今日までの調査実績からお教え願いたい。

(コンサルタント)

栗東市の人口規模からすると、回収率50%として1000件のデータがあれば信頼はおける。2000人の抽出で十分。この調査は高齢の方の回答も多いので、インターネットによる調査は難しいと思う。

(委員長)

今後の検討ということで。

アンケートの方法としては、前回同様の18歳以上2000人、郵送ということでもよろしいでしょうか。

<異議なし>

内容についてはどうか。

(委員)

事前に資料が配られたので自身でアンケートに回答してみたが、分量が多い。重複するような内容もあるような印象を受けた。

(委員)

問23について、選択肢3の「住民として福祉課題に主体的に取り組み」としているが、住民が主体的に取り組むかどうかの参加意識を問う設問なので、「地域の福祉活動」にしてはどうか。福祉課題というと、行政や専門職が取り組むことになってくる。

(委員長)

選択肢2の「福祉課題」はそのままでもいいか。

(委員)

選択肢2は「地域の福祉課題に」と、「地域の」を加えたらいいのでは。

(委員長)

では、そのように。配布予定についてはどうか。

(事務局)

12月中に修正し、年明けに発送を予定。アンケートの修正内容をあらためて委員会に諮るの難しいので、委員長、副委員長に一任いただいて確認してもらってと考えている。

(委員長)

スケジュールもあるので、修正部分は委員長、副委員長で確認させていただくということでもよろしいでしょうか。

(委員)

問15-1-1のボランティアの内容ですが、抽象的なので具体的な例を挙げてもらえないか。自分の活動が何に該当するかわからない。

(委員長)

事務局で検討をお願いします。

アンケートにご賛同いただける方、挙手をお願いします。

<賛成多数・了承>

(事務局)

アンケートについては今後、委員長、副委員長等と協議して進めさせていただきたい。

その他 (事務連絡)

次回は2月末ごろと考えている。日程はまた、あらためて報告させていただく。

5. 閉 会

(副委員長)

<閉会のあいさつ>